

書 評

神崎秀陽 (編)

更年期・老年期外来ベストプラクティス —誰もが知りたい104例の治療指針—

評：堂地 勉 (鹿児島大学医学部産科婦人科学教室)

最近の医学・医療の進歩は、更年期を契機として、あるいは更年期周辺でさまざまな身体の急激な変化や疾患が発生することを明らかにしている。しかも、その機能的な、あるいは器質的な変化は、加齢よりもエストロゲンの減少が大きな要因になっていることをも明確にした。一方、女性が社会に進出し、それが当然のことになった現在では、更年期や更年期周辺に発生するさまざまな身体の変化・変調にどのように対応するかが、重要な課題としてクローズアップされている。このような状況のなかで、健康であるということは、個人それぞれのQOLを追及することのみならず、社会的にも非常に重要な意味を持っているといえよう。

また、更年期は更年期障害のみならず、特に閉経以降は高血圧、糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、脳血管障害、痴呆などの発生率が上昇してくることが明らかになっており、婦人科疾患のみならず、内科疾患、整形外科疾患、精神科疾患などもある程度念頭に置いた治療戦略が必要になってくる。しかし、多忙を極める産婦人科医にとって、他科疾患をじっくり勉強する時間がないことも事実である。また、婦人科疾患であっても、日進月歩する薬剤や治療に関しては、自分の専門分野でなければ常に最新の知識を持つておくことは困難である。さらに、当世の情報化社会にあって健康に関する情報は氾濫しており、一般人のみならず医療関係者においても混乱しかねない状況にある。

本書はこれらの点を踏まえ、更年期および老年期女性の診療の際に、迷ってしまうであろう、あるいは、ためらってしまうであろう治療法や対処法について、それぞれの分野におけるエキスパー

トによる最新の治療方針と適切かつ具体的な対処法が記載されている。網羅されている内容は、婦人科疾患から泌尿器科疾患、内科疾患、精神科疾患および整形外科疾患など多岐にわたり、焦点を絞ったQ & A方式になっている。また、設問にキーワードを付したり、「ここがポイント」という項目をつくるなど、読者の理解を助けるように工夫が凝らされている。忙しい読者であれば、「ここがポイント」を読むだけでもその項目の重要点が理解でき、かつ最新の知見や治療法が入手できるようになっている。

特に多くの読者が知りたいと思われるホルモン補充療法に関しては、最新の知見に基づくアドバイスが項目別に数多く記載されており、診療の際に大いに役立つものと考えられる。また、その情報は、そのまま患者さんへの適切なアドバイスにもなり、患者との信頼関係が深まることで治療成績が向上することが期待できる。さらに、他科疾患に関しても、最新の情報のみならず、産婦人科医として必要最低限必要な情報が各項目ごとにコンパクトにまとめられており、日常診療の助けとなることは間違いのないであろう。

このような実践的で、最新情報を満載した書はあまり見たことがなく、読了後、この上ない良書であると実感した次第である。更年期および老年期外来担当医、女性外来担当医やオフィス開業医、また中高年以降の疾患に興味のある医師にとっては、ぜひとも手元に置きたい書（バイブル）であると確信する。

●B5 頁408

定価8,925円(本体8,500円+税5%) 2012年
[ISBN978-4-260-01533-2] 医学書院 刊